

会 報

◀第348号▶

一般社団法人兵庫県建築会



発行日:平成26年10月1日

- 目次
- ◎ 第432回月例会の報告 『黒田官兵衛の実像』 中元孝迪氏 …… 1～3頁
 - ◎ 会員レポート 『明舞団地まちびらき50周年』(第4回) 川端宏幸氏 …… 3～4頁
 - ◎ 交流のひろば 『国語と英語の板挟み』 社家 浩氏 …… 5頁
 - ◎ お知らせ …… 5頁

第432回月例会 (講演要旨)

開催日 平成26年9月11日(木)
開催場所 西村屋 和味旬彩
テーマ 「黒田官兵衛の実像」
講師 中元 孝迪氏
播磨学研究所所長、兵庫県立大学特任教授
元神戸新聞論説委員長

1 官兵衛のイメージ

官兵衛は軍師であるがそこから大きく進化し、最終的には天下を狙うところまでいったと解釈すべきである。



月例会風景

官兵衛の生涯を見ると、色々なポイントある。天下の策士、謀略家といった暗いイメージが持たれていたが、最近の評価では、新しい官兵衛像を作り上げる必要が出てきている。

本来、軍師とは中国では諸葛孔明のような帝位(王)を支え、作戦を授ける文人を指すが、日本では、軍人・武将がその任務をこなし、官兵衛もその一人である。その官兵衛は、軍師から大きく進化し、最終的に天下を狙う戦国有力大名に成長した。同時に、言葉の魔術師、教養人であり、そのような側面からも見る必要がある。

2 青山の合戦

黒田氏の発祥は、「黒田家家譜」によると滋賀県木之本町黒田(現長浜市)。その後、備前・福岡・龍野(赤松氏)と流れ、祖父重隆は姫路・御着(小寺氏)に仕え、頭角を表し姫路城を任される。

官兵衛は、1567年22歳で家督を継ぐ。直後の1569年、対立する龍野・赤松軍の姫路への侵

略に対し、兵数に極端に劣りながら、奇襲攻撃や夜襲により逆転大勝利を収める。

この戦いで、重臣を失うも、主従の間で一層の信頼関係が築かれ、同時に周辺領主からの評価が一気に高まることとなった。

局部戦ながら、黒田家・官兵衛にとって飛躍を成す戦いであり、官兵衛を知るうえで最も重要な戦の一つである。

3 信長支持へ転換

播磨・姫路は東西勢力の狭間であるが、交流交易等から毛利びいきが多く、小寺家でも官兵衛を除き、重臣は全て毛利派であった。

官兵衛は、元々は信長ざらいであったが、「天下布武」の印を用い天下統一を目指す信長こそ時代を変える人物と判断した。それは、姫路が重要街道の交差点で、人、金、物が行き来する情報拠点であったことから、その情報分析の結果、この判断に行き着いたと見る。

官兵衛は、小寺正職を説得し、織田支持への転換を認めさせた。そして、異例のことながら地方の一介の家老職の官兵衛が、信長に拝謁のために美濃に赴き、中国地方の形勢と対策について縷々説明した。結果、信長は共感し「圧切の刀」(現在国宝)を授ける。これは信頼の証であり、官兵衛を次の指導者として認めたものとも解釈される。(1575年)

1578年、秀吉は中国攻めのため前年に続いて播磨へ進軍するが、同時に三木・別所、伊丹有岡・荒木村重の反乱が起き、このため、播磨一円は反信長の旗を揚げ、初期の段階に戻ってしまう。

4 官兵衛の危機

御着・小寺家でも反乱に同調する動きとなり、なおも信長支持の官兵衛は、自身の暗殺を察知し姫路に戻るが、父職隆との協議を経て、信長に二心を抱かず、小寺政職にも背かない事を旨



御着城跡

として御着に戻る事となる。

小寺政職はやむを得ず村重の信長帰依の説得に官兵衛を赴かせることとしたが、これは政職が村重と結託した筋書である。



有岡城牢屋再現 (大河ドラマ館)

しかし、村重は有岡城に乗り込んだ官兵衛を殺害せず、最終交渉の切り札として生け捕りにして牢屋に1年余に亘り幽閉した。(1578年)

正論、原理原則を貫いた結果、官兵衛及び人質として織田に差し出していた子・松寿丸(長政)共に奇跡の生還を果たした。(1579年)

この間、黒田家臣団は「連署起請文」により結束が諮られ、周辺大名には畏敬の念を抱かせることとなる。

官兵衛は、この危機を乗り越えたことにより自信を持つことになる。

5 軍師からの進化

○ 官兵衛の城譲り

官兵衛は、中国攻めの拠点として「国の中央で交流拠点の姫路が国主の居城に相応しい」として秀吉に姫路城を譲ることを申し出る。(1580年)

武将にとって命より大事な城を譲り渡す要因として、秀吉一流の人心掌握術にあるが、官兵衛にあっても、秀吉の補佐役というより、信長後、協働で天下を狙おうとしたものとする。

○ 軍師の立場を超えた言動

備中高松城において、毛利との和睦を明日に控える中、本能寺にて光秀の謀反による信長の自害の報が入る。この書状を見て「秀吉御愁嘆浅からず」の秀吉に対し、孝高(官兵衛)は「貴公天下の権柄を取給ふへきことこそ存じ候へ」と、大胆に「天下を取れ」と軍師の域を超えた進言を行う。(黒田家譜)

そして、中国大返しとなり、山崎の合戦で秀吉の天下取りの地歩を固める。

- 1582年6月2日朝・本能寺の変
- 3夕・信長自害の報せ
- 4日昼・毛利との和睦 4日中国大返し
- 6日姫路城へ、11日尼崎、12日摂津富田、
- 13日夕・山崎の戦い

信長に接した後の官兵衛は、次に、あるいは次の次に天下人となるのは誰かを絶えず考えていた。それが官兵衛の原点となっている。

次は秀吉としつつ、自分は影の存在でなく、秀吉の補佐というより協働して天下を担おうとしていたものである。

6 秀吉の警戒

二つの出来事は、秀吉に警戒感を抱かせ、官兵衛

を見る目が変わってくる。一例は、山崎の合戦の働きに対し、中津12万石を与えるが、他の武将の恩賞から見て、いかにも不相応な処遇であった。(1587年) その一方で、秀吉は、天下統一の仕上げとなる「小田原出陣と講和の纏め」や朝鮮役のための「名護屋城20万人の城下町の縄張り」に官兵衛の知恵、力は借り続けるものの、終に政治の中枢には入れなかった。

朝鮮の役で渡海する如水への送別歌会でこの句に心境が詠われている。

「一たびにさかはいづれか初桜」(昌叱)

「梅うつろへる軒の山風」(細川幽齋)

「うぐいすの間垣へたつる声はして」(如水)

～うぐいすは垣根の向こうにいるのに

自分のところへは来ない～

「政治中枢」からはずされた寂しさ、悔しさが端的に表れた句で、いずれ「天下へ」との強い野心の発露が窺える。また文人官兵衛がいかんなく発揮されている句である。

7 官兵衛と関ヶ原、天下への執念

1598年秀吉没、1600年9月15日に関ヶ原の戦いが起こるが、黒田家は不思議な行動に出る。

9月9日に長政を家康の元へ遣わせ、同日、自身は9000人の兵を集め、九州の西軍三成派を叩く名目で国東半島～九州征討へ向かう。これは、第三極の西日本連合を結成し、三成又は家康何れかの勝者に挑戦する意思で、天下を狙ったものとする。(吉川広家への書状)

更に、関ヶ原の戦い終了後も九州制圧を続け、あと島津を残すのみとなった11月12日、水俣において家康の停戦命令を受け、官兵衛の野望は潰えた。

8 知識人・官兵衛

野村紹邑が絶賛した、知識人官兵衛を表す連歌。

発句(昌叱)「おそるのみをゆゆしとはせじ」

返句(官兵衛)「虎はしる野辺はけもの声もなし」

中国の詩に倣ったもの。政治家としての戒めの句で、「天下国家」を治める者の要諦である。

9 まとめ

- ① 軍師から進化＝学習し進化する
戦国有力大名、政治家。天下をも狙う。
- ② 戦国きつての文化人、知識人＝文武の必要性
細川幽玄、明智光秀と並ぶ
- ③ 高い信頼ぶれない思考＝情報収集、分析力の重要性

人間的魅力あふれる現代が求める大きな人物であった。(事務局まとめ)

◎ 事務局より

テレビ放映中で、出席者の多くが視聴している人気番組だけに大変興味深くお聴きしました。番組や本では分からない軍師・官兵衛の形成過程がよく理解できました。ありがとうございました。

会報編集過程で紙面に余裕ができましたので、講演要旨に記載できていないもので、官兵衛に関する新説等を追録します。

会員レポート

『明舞団地まちびらき 50 周年』(第 4 回)
兵庫県住宅供給公社
理事長 川端 宏幸

○官兵衛肖像画から見えるもの↓

<http://sengoku-g.net/men/view/23>

(肖像画所有権から掲載は差し控えました)

官兵衛の肖像画に見られる立膝の姿勢は、有岡城の幽閉で脚を悪くしたことよるとの通説であるが、これは柿本人麻呂の肖像画に見られるように、文化人を描くときの絵画スタイルとする説があるとのことでした。

○官兵衛の出自

講演会でお聞きした官兵衛の出生地に「西脇市黒田庄」の新説があるとのことでした。西脇市ホームページを拝見しましたが、大々的に「官兵衛の里」を売り出し中です。興味のある方は一度ご覧ください。

西脇市ホームページ(まちかどニュース) ↓

<http://www.city.nishiwaki.lg.jp/>

↓

黒田官兵衛ゆかりの里、西脇市

↓

「官兵衛の里 西脇市」主張の書

○官兵衛の生涯年表(講演レジュメより)

- 1546年 天文15年 万吉(孝高・官兵衛)誕生
- 1567年 永禄10年 職隠隠居、官兵衛家督を継ぐ
- 1569年 永禄12年 **青山合戦**、官兵衛大勝
- 1575年 天正3年 「小寺は織田に」官兵衛進言
- 1576年 天正4年 毛利軍英賀へ、官兵衛撃退
- 1577年 天正5年 秀吉播磨入り、但馬も平定
- 1578年 天正6年 秀吉第2次播磨入り
- 別所、荒木反乱。官兵衛幽門
- 1579年 天正7年 伊丹陥落。官兵衛救出。
- 1580年 天正8年 三木落城。秀吉に姫路城献城。
- 播磨山崎で初の大名鳥取出陣。翌9年鳥取開城。
- 1582年 天正10年 **備中高松城攻撃。本能寺の変。**
- 中国大返し、山崎合戦。秀吉天下へ。
- 1587年 天正15年 山崎から中津12万石へ
- 1590年 天正19年 名護屋城縄張り
- 1592年 天正20年 渡鮮
- 1598年 慶長3年 **秀吉没**
- 1600年 慶長5年
- 9. 9 **長政関ヶ原出陣。**
- 如水(官兵衛)九州征討開始。**
- 9. 15 家康、三成を破る
- 11. 12 家康停戦命令
- 1604年 慶長9年4月 **如水没**

連載の冒頭に、明舞団地は今年でまちびらき 50 周年を迎えると述べたが、最終回に当たってその記念事業についてご紹介する。

1 記念事業の概要

前号ご紹介したように、住民の活動が活発化するなか、50 周年を記念して、地域住民と行政、団体が一体となり、これまでの団地再生の取組み成果や活動状況の発表を行い、団地住民や県内外の同様な団地再生の課題を抱える住民に情報を発信することとしている。

そのため、現在の住民の活動の充実と新規イベントの取組を促すことによって、年間を通じて約 50 の事業の実施を予定している。県・公社は再生の成果を発信するため、シンポジウムの開催や記録誌の作成を行うこととしている。

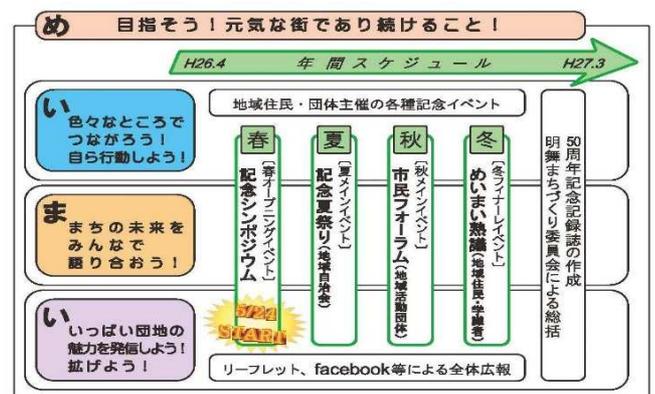
推進体制としては、住民・商業者代表、NPO、有識者、行政で構成される「明舞まちづくり委員会」のもとに、各イベントに実行委員会を設置し、県・公社がその総合事務局を務めている。

2 記念事業のコンセプト

記念事業の「めいまい4 コンセプト」として、

- ①平成 15 年度に策定した明舞団地再生計画の基本方針『元気な街であり続けるために』の確認と推進
- ②まちづくりの担い手となる地域住民の連携と活動の促進
- ③まちづくりを進めていく上での地域の課題と将来展望の共有
- ④これまでの取組を整理し、活動の拡充と情報発信を掲げて、各種の記念事業を行うこととしている。

コンセプト図



3 主な記念イベント

以下、主な記念イベントをご紹介します。

- ①オープニングイベント(5月24日、主催：県・公社)
リニューアルされた松ヶ丘ビルにおいて、知事やテナント関係者等を来賓に迎えてオープニングイベントを開催し、住民をはじめ約300名が参加した。



地元、舞子中学校吹奏楽部の演奏を皮切りに、来賓と関係者がテープカットで同ビルの再生を祝った後、記念シンポジウムを開催した。まず基調講演で、小森神戸商

大名誉教授が明舞を初め国内外の住宅団地の歴史とライフスタイルの変遷について講演した。

続く事例紹介で、UR 武庫川団地と猪名川町関係者が、団地の魅力を高め住民意識を高める各団地の再生の取組を紹介した。最後のパネルディスカッションで、参加者が明舞団地の長所や課題について語り、今までの取組を活かして50年先を展望したまちづくりを1年間一緒に考えていきたいと総括した。



②明舞サマーイベント遊活

(7～8月、主催：明舞まちづくりサポーター会議)

前号でご紹介したまちづくり広場で活動する8団体が、夏休み中の小学生を主対象にカブトムシの生態を学んだり、エコクラフトや綿菓子づくりなどを体験できる教室等を開催し、271名の参加を得た。

③明舞納涼祭

(8月30日、主催：明舞団地連合自治協議会)

8月9、10日予定の第46回明舞夏まつりが台風で中止となり、それに代わる明舞納涼祭が開催され、自治会及び協力者による出店、木管三重奏、演歌のタベなどを、住民をはじめ約500名が楽しんだ。



④その他のイベント

前号で紹介したNPOひまわり会が6月に食のフェスタ等10周年記念事業を開催したほか、まちづくり広場を運営する明舞まちづくりサポーター会議が10月

に10周年を祝う作品展示会を予定している。12月クリスマスコンサート、1月新春餅つき大会、3月スプリングコンサート等、恒例の楽しいイベントも予定されている。また3月28～29日には、明舞プラザで活動する明舞カルチャー団体が合同発表会や展示会を開催し、同プラザのリニューアルを祝う予定である。

⑤今後の取組

10月26日には、明舞団地の未来像について、小中学生・高校生、大学生が集まり模型の製作やシャッターアート、提案等を披露する市民フォーラムを開催するほか、2月22日には、明舞団地に関する学識者でつくる明舞再生塾の主催で、住民をはじめ参加者が、テーマ毎にグループ討議を重ね、50周年記念事業を総括して今後の方向を提言する明舞熟議を開催する。

4 記録誌の作成

50周年記念事業の成果として、地域の歴史や開発経緯、団地の概要、まちづくり50年の取組等を当時の写真をはじめ関係資料や居住者の綴る思い出と併せて、とりまとめた記録誌の作成を計画している。

この記録誌が、県内外の団地再生に取り組んでいる住民や行政・企業関係者の参考となるよう、広く情報発信していく予定である。

明舞団地の取組や記念イベントについてもっと知りたい方は専用ホームページにアクセスください。

<http://support.hyogo-jkc.or.jp/m/>

シンボルマーク



《事務局より》

7月の第345号以来、4回に亘り連載リポートありがとうございました。

5月の総会のご挨拶で50周年シンポジウムの紹介があり、久しぶりに明舞団地を訪問させていただきました。県営住宅の建替えも順調に進み、私が住宅管理を担当していたころとは様変わりをしていました。願いは、若い世代が県営住宅に関心を示してくれればです。

翻って、私の住む郊外の団地でも高齢化が進み、いつしか子供の歓声がなくなっていました。深刻なのは、県や公社のような公的な後ろ盾がなく、NT開発業者は既に住宅開発から撤退しているということです。加えて、賃貸住宅がなく、住み替え需要という早期の世代交代が期待できません。

それぞれの特性の中で対策を考えていかなければなりません。先導団地のお知恵をお授け下さい。

『国語と英語の板挟み』

株式会社 淡路土建
顧問 社家 浩

先日、数年ぶりの小学校同級会に出席しました。

昭和 22 年に小学生入学の仲間たちは、それなりに
 古い・様変わりしているものの、見分けが付く程度の
 面影を残し、元気そのものでした。小学校とは言え、
 淡路島の片田舎では、中学生まで一つの箱に詰められ
 て育ったため、中学校同級会も同じで、総数 80 数名
 の約半分程の「瀬戸内昼食会」の感覚でした。

中学校に入り、初めて英語を学び始めた頃は、その
 新鮮さに感動しましたが、それも束の間、単語暗記・
 アクセントの困難さに追い付けず何時の間にか嫌いな
 科目の一つとなりました。その後 10 年間、英語の
 苦労を重ねてきたものの、片言すらも喋ることも出来
 ず、たまに出かける外国入国では、相手の間に「分
 からん」と日本語で返事をする有様。

そんな話から宴会では、英語論議へと変わり、喧々
 譁々となり始めた頃、当時英語を得意としていた、あ
 る女史(今は良きお婆さん)が曰く

”ところで、この頃の新聞・テレビから雑誌に至るま
 で、外来語と言うか 特に英語混じりの表現が多くな
 って来た様に思いませんか？ だから読んでもうよう分
 かりません”と話し始め、また譁々。

あのマドンナにしてその実感なら、英語オンチは押
 して知るべし、彼女の言うとおおり、理解し難いのは当
 たり前の報道の表現になっているように思われます。

世は挙げてグローバルスタンダードの時代。英語
 塾・会話教室等に東奔西走し、子供から大人まで熱を
 上げています。そのために、前述の報道表現となって
 来ているのですが、アンチ英語派としては、面白
 くなく今こそ国語つまり日本語の良さを省みてはど
 うか、と叫びたい所であります。

“おもてなし”の言葉で、東京五輪誘致を成功させた
 ような、本来の優しく美しい日本語が持つ、奥ゆかし
 い言葉の心と言葉使いを、今一度学び省みる事も必要
 では？と考える次第です。グローバルスタンダードも
 結構ですが、ジャパニーズ
 スタンダードの善さを忘
 れてはいけません。



日本の文化である俳句
 もそうです。日本語の持つ
 柔らかさが生きています。

九月に入り “三色の 並んで競ふ 百日紅”
 の駄句を詠みました。

建築会の皆さん、秋にはご一緒に山野を巡り”秀句”
 に挑戦して見ませんか。

◎ 行事ご案内

- 1 第 4 3 3 回月例会…参加者募集中
 と き 10月16日(木) 12時～14時
 ところ 東急イン
 テーマ 「原子力発電について考えてみませんか？」
 講 師 長野 恒己氏
 ながの技術士事務所代表
 ひょうご出前環境教室講師

- 2 見学研修会 (第 4 3 4 回月例会併催)
 …参加者募集中

《平安の色彩と紅葉を訪ねて》

- と き 11月20日(木) 8時45分集合
 ところ 京都府宇治市 三室戸寺、
 平等院鳳凰堂
 京都市伏見区 月桂冠大倉記念館
 京都市東山区 東福寺



改修なった平等院鳳凰堂



東福寺(前年同時期)

- 3 新年交礼会
 と き 平成 27 年 1 月 8 日 (木)
 ところ 東急イン
 詳細はおってご案内します。

◎ 事務局便り

心配した台風も、9月の襲来は避けてくれたよう
 で、天気も順調に推移し、被災地の復旧も一段
 と進んでいることと思います。

その一方で、御嶽山の突然の噴火には驚かされ
 ました。ロープウェイもあり手軽に登れる3千メ
 ートル級の山で、多くの登山客で賑わっていた最
 中でした。地震と火山活動の関係もあるようで
 す。少なくとも活火山への登山は暫く様子を見た
 方がいいのでしょうか。富士山は、1707年、
 宝永地震の直後に大爆発を起こしたようです。

まさか・・・。

秋の行楽シーズン、旅先にはくれぐれもお気を
 付けて。社家師範のご指導で、京都の紅葉を愛で
 ながらの吟行はいかがでしょう。まだ余裕があ
 ります。ご参加よろしくお祈りします。

(氏名の訂正)

第 4 3 2 回月例会講師の「中元 孝迪氏」の「迪」
 を「廸」で紹介していました。謹んでお詫びし訂正
 をさせていただきます。